HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新人文学(11)
発行日	2014-12-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

平成二十五年度 大学院文学研究科

❖学位論文題目一覧

修士学位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
内平　淳一	森敦『われ逝くもののごとく』論
髙橋　昭	「神宮寺の建立とその思想」 ―七世紀から九世紀を中心として―

●英米文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
佐藤　公美	ACTEL-OPIのテストとしての可能性 ―テスター間によるインタビュー内容の比較による考察―
大島　直樹	冷戦下のブラウン判決 ――アメリカを公民権へ突き動かした国際世論

❖授業科目及び担当者

●日本文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
比較文学特殊研究Ⅰ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊研究Ⅱ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊研究Ⅲ	テレングト・アイトル 教授
日本古代中世史特殊研究Ⅰ	追塩千尋 教授
日本古代中世史特殊研究Ⅱ	追塩千尋 教授
日本古代中世史特殊研究Ⅲ	追塩千尋 教授
仏教文化史論特殊研究Ⅰ（禅文化史論）	船岡 誠 教授
仏教文化史論特殊研究Ⅱ（禅文化史論）	船岡 誠 教授
仏教文化史論特殊研究Ⅲ（禅文化史論）	船岡 誠 教授
近現代史特殊研究Ⅰ	郡司 淳 教授
近現代史特殊研究Ⅱ	郡司 淳 教授
近現代史特殊研究Ⅲ	郡司 淳 教授
アイヌ文化論特殊講義Ⅰ	手塚 薫 教授
アイヌ文化論特殊講義Ⅱ	手塚 薫 教授
アイヌ文化論特殊講義Ⅲ	手塚 薫 教授
アジア文化論特殊研究Ⅰ	須田一弘 教授
アジア文化論特殊研究Ⅱ	須田一弘 教授
アジア文化論特殊研究Ⅲ	須田一弘 教授

●英米文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
英米社会文化特殊研究Ⅰ	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊研究Ⅱ	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊研究Ⅲ	岩崎まさみ 教授
欧米社会文化特殊研究Ⅰ	濱 忠雄 教授
欧米社会文化特殊研究Ⅱ	濱 忠雄 教授
欧米社会文化特殊研究Ⅲ	濱 忠雄 教授
英米思想文化特殊研究Ⅰ	上杉 忍 教授
英米思想文化特殊研究Ⅱ	上杉 忍 教授
英米思想文化特殊研究Ⅲ	上杉 忍 教授
欧米思想文化特殊研究Ⅰ	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊研究Ⅱ	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊研究Ⅲ	安酸敏眞 教授

●日本文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
日本文学特殊講義Ⅰ	井野葉子 准教授
日本文学特殊講義演習ⅠA	井野葉子 准教授
日本文学特殊講義演習ⅠB	井野葉子 准教授
日本文学特殊講義Ⅱ	田中　綾 准教授
日本文学特殊講義演習ⅡA	田中　綾 准教授
日本文学特殊講義演習ⅡB	田中　綾 准教授
日本文学特殊講義Ⅳ	中村三春 講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡA	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡB	大谷通順 教授
表象文化論特殊講義	大石和久 教授
表象文化論特殊講義演習A	大石和久 教授
表象文化論特殊講義演習B	大石和久 教授
日本言語文化特殊講義Ⅰ	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠA	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義演習ⅠB	中川かず子 教授
日本言語文化特殊講義Ⅱ	菅　泰雄 教授
日本言語文化特殊講義Ⅲ	徳永良次 教授

授業科目	担当教員
日本言語文化特殊講義演習ⅢA	徳永良次 教授
日本言語文化特殊講義演習ⅢB	徳永良次 教授
日本言語文化特殊講義Ⅳ	門脇誠一 講師
日本歴史文化特殊講義Ⅰ	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠA	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠB	追塩千尋 教授
日本歴史文化特殊講義Ⅱ	船岡　誠 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅡA	船岡　誠 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅡB	船岡　誠 教授
日本歴史文化特殊講義Ⅲ	郡司　淳 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢA	郡司　淳 教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢB	郡司　淳 教授
北方文化論特殊講義Ⅰ	中村英重 講師
アイヌ文化論特殊講義	手塚　薫 教授
アイヌ文化論特殊講義A	手塚　薫 教授
アイヌ文化論特殊講義B	手塚　薫 教授
アジア文化論特殊講義Ⅰ	須田一弘 教授
アジア文化論特殊講義演習ⅠA	須田一弘 教授
アジア文化論特殊講義演習ⅠB	須田一弘 教授
アジア文化論特殊講義Ⅱ	李　俊鎬 講師

●英米文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
英米社会文化特殊講義Ⅰ	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊講義ⅠA演習	岩崎まさみ 教授
英米社会文化特殊講義ⅠB演習	岩崎まさみ 教授
英米歴史文化特殊講義Ⅰ	常見信代 教授
英米歴史文化特殊講義ⅠA演習	常見信代 教授
英米歴史文化特殊講義ⅠB演習	常見信代 教授
英米歴史文化特殊講義Ⅱ	上杉 忍 教授
英米歴史文化特殊講義ⅡA演習	上杉 忍 教授
英米歴史文化特殊講義ⅡB演習	上杉 忍 教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅰ	濱 忠雄 教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠA演習	濱 忠雄 教授
欧米歴史文化特殊講義ⅠB演習	濱 忠雄 教授
欧米歴史文化特殊講義Ⅱ	太田敬子 講師
英米思想文化特殊講義Ⅰ	柴田 崇准教授
英米思想文化特殊講義ⅠA演習	柴田 崇准教授
英米思想文化特殊講義ⅠB演習	柴田 崇准教授
英米思想文化特殊講義Ⅱ	川上武志 教授
英米思想文化特殊講義ⅡA演習	川上武志 教授
英米思想文化特殊講義ⅡB演習	川上武志 教授
英米思想文化特殊講義Ⅲ	瀬名波栄潤 講師
英米言語文化特殊講義Ⅰ	上野誠治 教授

授業科目	担当教員
英米言語文化特殊講義ⅠA演習	上野誠治 教授
英米言語文化特殊講義ⅠB演習	上野誠治 教授
英米言語文化特殊講義Ⅱ	米坂スザンヌ 教授
英米言語文化特殊講義ⅡA演習	米坂スザンヌ 教授
英米言語文化特殊講義ⅡB演習	米坂スザンヌ 教授
英米言語文化特殊講義Ⅲ	田中洋也 准教授
欧米思想文化特殊講義Ⅰ	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊講義ⅠA演習	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊講義ⅠB演習	安酸敏眞 教授
欧米思想文化特殊講義Ⅱ	佐藤貴史 准教授
欧米思想文化特殊講義ⅡA演習	佐藤貴史 准教授
欧米思想文化特殊講義ⅡB演習	佐藤貴史 准教授

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇一四年度第一回「全体ゼミ」(修士課程二年・中間報告)―七月五日(土)(13：00～15：45)、本学D41番教室にて開催された。修士課程二年に在学する5名の大学院生が、次のような題目で、修士論文の構想とその一部を発表した(参加者約30人)。

清水敏弘「日本現代ミステリ序論」
山森未央「中等教育における日本語学習者の動機づけに関する研究～カナダでのTA活動を通して～」
小川ゆう紀「韓国人学習者の日本語教師に対するビリーフ～大学生への質問紙調査からの考察～」
竹田麗華「知識の保存と伝承における「書物」の役割～電子化によるメディアの再編～」
堺　達也「仮定法現在節内の副詞」

◎二〇一四年度第二回「全体ゼミ」(修士課程一年・中間報告)―十一月八日(土)(10：00～14：10)、本学D41番教室にて開催された。修士課程一年に在学する7名の大学院生が、次のような題目で、修士論文の構想を発表した(参加者約20人)。

田中涼斗「諏訪信仰を支える神々」
曹　雯「「配慮表現」を日本語教育現場にどう反映させるか―中国人学習者の意識と使用実態から―」
宮下幸光「「民族共生の象徴となる空間」の設置及び運営のあり方に関する研究」
井上みのり「日本語教育における女性語についての考察―アメリカにおける日本語イマージョン教育現場での調査から―」
寺崎民記哉「北海道の外国人実習生に対する日本語習得の諸問題―農業実習生を中心に日本語支援に向けての課題―」
中村真衣佳「色彩語メタファー表現の共起性基盤――共感覚表現「黄色い声」を中心に」
大木七帆「日本人英語学習者の語用論的認識―定型表現知識との関係―」

◎北海学園大学人文学第2回大会―十一月二十二日(土)(14：15～17：00)、本学AV4教室にて開催された。今回のテーマは「人文学の新しい可能性(2)――安酸敏眞『人文学概論』を読む――」。安酸氏が出版された近刊『人文学概論――新しい文学の地平を求めて――』で提起された諸問題につき、4名のパネリストがそれぞれの専門分野からコメントを加えた。その後、それらの発言につき、会場の参加者をまじえて短時間ながら白熱した質疑応答が交わされた。

○パネリスト
大谷通順(日本文化学科教授　中国文学)「中国の人文的教養から」
柴田　崇(英米文化学科教授　メディア論、生態心理学)「「良き文献学」と「悪しき文献学」、そしてメディア研究との接点」
仲松優子(英米文化学科教授　フランス近世・近代史)「近代歴史学と歴史的事実」
手塚　薫(日本文化学科教授　文化人類学)「人文学の新たな展開に向けて―「環境文化」からの視点―」

○司会
本城誠二(英米文学科教授　アメリカ文学・文化)

編集後記

◉『年報 新人文学』第11号をお届けします。六篇の論文と一篇の書評からなる、多彩な内容の号を編むことができ、編集子として喜びにたえません。積極的にご投稿くださった方々、そして厳正な査読をおこなってくださった先生方に心よりお礼を申しあげます。

◉本号の「巻頭言」を執筆してくださった安酸敏眞氏は、この夏に『人文学概論――新しい人文学の地平を求めて――』(知泉書院)を出版されました。「新人文主義」を標榜するわれわれはいわずもがな、文学・歴史・哲学など人文学のさまざまな領域で学ぶ人々に広く読まれるべき書です。「文学研究科教育・研究発表活動」で報告しましたように、十一月には本学人文学部との共催で「北海学園大学人文学第2回大会」が開かれ、同書をとりあげて活潑な議論が展開されました。ちなみに安酸氏は、十二月には早稲田大学文学学術院総合人文学研究センターで開催されたシンポジウム「新しい人文学の地平を求めて―ヨーロッパの学知と東アジアの人文学―」に招待されて報告をされました。早稲田大学関係者によると、その報告「現在(いま)、あらためて《人文学》を問う」は出席者に深い感銘を与えたそうです。

◉平成二十四年四月より研究科長の重責を担ってこられた追塩千尋氏は二十六年三月をもって任期を満了され、須田一弘氏が新たにその任につかれました。追塩氏は今号でも論文および書評各一篇を執筆されていますが、編集を担当する者にとって高水準の論考を安定的に投稿してくださる力強い味方です。どうか今後も引きつづきよろしくお願いいたします。

◉ところで、平成二十六年の学部カリキュラム改訂にともない、平成二十七年より文学研究科のカリキュラムを改訂することとなりました。専攻の独自性を維持しつつも、より横断的な科目履修・研究が可能になるよう、日本文化専攻・英米文化専攻ともにカリキュラム全体を言語・思想文化科目と歴史・環境文化科目に大別したほか、科目の名称を整理・統合しました。これにより、学生はより柔軟な科目履修ができるようになる見込みです。

(大谷通順・田中洋也)

『年報 新人文学』投稿規定

一、『年報 新人文学』は、人文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。

二、投稿原稿の著者は、当人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。

三、原稿は、原則、日本語とし、縦書き、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。

①原著論文で未発表のもの、四〇〇字詰原稿用紙五〇頁程度。

②研究ノート・資料・報告など、四〇〇字詰原稿用紙三〇頁程度。

③書評など、四〇〇字詰原稿用紙一〇頁程度。

④その他、編集委員会が必要と認めたもの。

四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報新人文学』編集委員会